

## 令和5年度 第4回市政モニターアンケート

### 「文化財保存活用地域計画」についての集計結果からの考察

問1 あなたが思う「文化財」とは何ですか。

戦後や現代の資料などは、あまり文化財と認識されていない。

「文化財」と言った時に、国立の博物館にあるものや京都のお寺を思い浮かべる方が多いと思うが、広くは、「人々が生活する長い歴史の中で、生まれ、育まれてきたもの」である。そのうちの一部が法律や条例で「指定」されたもので、指定されていない文化財も私たちのまわりにはたくさんある。今回の選択肢はすべて文化財になり得る。「歴史ある神社や仏閣」と回答した人が42人(97.6%)、「地域に伝わる祭りや伝統芸能」と回答した人が33人(76.7%)、「貝塚や集落跡、古墳や城館の址」と回答した人が24人(55.8%)と多くなっているが、「古い写真や書籍」や「戦後～高度成長期の産業の歴史を語る資料」と回答した人は、それぞれ9人(20.9%)、7人(16.3%)となっており、現代において比較的身近なものについては、文化財との認識がないことがわかった。50年後、100年後にも戦後の文化財を継承し、将来の富士宮市民に富士宮市の歴史文化が伝えられるように取り組んでいく必要を感じた。

問2 「文化財」という言葉のイメージは何ですか。

多くの方が大切なものと感じているが、身近に感じていない方もいる。

文化財を守っていくためには、文化財に対しての市民のイメージを把握し、できるだけ多くの方に御理解いただけるように、様々な事業を行っていく必要がある。「地域の歴史を語るものであり市民共有の宝物」「先祖から受け継いだものであり、未来へ継承していくべきもの」と回答した人が、ともに35人(81.4%)で多くの方が、文化財を守り伝えていくことに理解を示していることがわかった。

「大切ではあるが、身近に感じない」と回答した人が9人(20.9%)であり、身近に感じられる事業が必要だと感じた。

問3 富士宮市では文化財を守る取り組みをいろいろな方法で進めていますが、知っているものはありますか。

未指定の文化財の寄託や寄附については周知されていない。

「天然記念物の樹木などの保存管理の支援」と回答した人が17人(39.5%)で最も多く、次いで「歩く博物館事業による文化財の周知」と回答した人が13人(30.3%)となっているが、「文化財の収集と保管(寄託や寄附による)」と回答した人は3人(7.0%)とわずかで、「そうした取組は知らない・関心がない」と回答した人は9人(20.9%)だった。未指定の文化財も含めて、文化財を把握し適切な環境で保存することは、富士宮の歴史文化を明らかにすることにも繋がるため、これらの取り組みの周知がより必要と考える。

問4 あなたが文化財に接するのはどのような機会ですか。

観光旅行が最も多く、テレビ・ラジオ、博物館、イベントなどが多い。

「観光旅行」と回答した人が32人で(74.4%)、次いで「テレビやラジオの番組」と回答した人が24人(55.8%)で別の興味での行動と一緒に文化財に触れることが多いが、「博物館等の文化施設」と回答した人が20人(46.5%)、「年中行事などのイ

ベント」と回答した人が 16 人 (37.2%) で、自ら文化財に接する機会を作っている人も多くいることがわかった。一方で、「地域で行われる学習会・見学会」と回答した人は 5 人 (11.6%)、「関心はあるが機会はあまりない」と回答した人が 5 人 (11.6%) で、開催の方法や情報の発信など、参加者を増やすような手段を検討する必要があると感じた。

問 5 富士宮市の、時代ごとの歴史の特徴や出来事について知っていますか。

(知らない「1」、聞いたことがある「2」、なんとなく知っている「3」、よく知っている「4」)

**富士宮の歴史の特徴や出来事を知らない人が多い。**

富士宮市の歴史・文化について、その時々のお話などに合わせて、情報を発信してきたが、周知には至っていないことがわかった。各内容を通じて、「知らない」と回答した人が多かった。「知らない」と回答した人が最も多かった内容は「戦国時代の富士宮」で 31 人 (72.1%) だった。次いで「万野原の開墾」と回答した人は 30 人 (69.8%)、「多くの用水路が作られたこと」と回答した人が 27 人 (68.8%)、「朝霧高原の開拓」と回答した人が 26 人 (60.5%) であった。先人たちが、富士宮市で暮らしていくために苦労した出来事があまり知られていないことが分かった。一方で、「なんとなく知っている」、「よく知っている」を合わせた「知っている」については、「源頼朝の富士の巻き狩り」と回答した人が 28 人 (65.1%) で最も多く、次いで、世界文化遺産の構成資産でもある「富士山信仰」と回答した人が 27 人 (62.8%) となっており、一定の市民への周知がされていることが分かった。

問 6 あなたが知っている未来に残したい歴史文化資源を教えてください。

**食べ物、浅間大社の流鏝馬祭り、風景などが多かった。**

現在作成中の「文化財保存活用地域計画」では、指定された文化財だけでなく、地域で大切にしたい歴史文化も対象としているので、市で把握していない歴史・文化を集めるために質問した。富士宮やきそばをはじめとした食べ物や浅間大社のお祭り、また、風景など、どれも富士宮市民として大切にしていきたいものばかりだった。今後、計画策定を進める中で、歴史文化資源のリスト作成や事業を検討する中で参考にしていく。

問 7 あなたは市内の文化財について知りたいときに、どこから情報を収集しますか。

**市内の文化財の情報は、市が発信した情報が最も利用されている。**

「市のホームページ」と回答した人が 21 人 (48.8%) で最も高く、市が発行している文化財に関する冊子と回答した人が 16 人 (37.2%)、郷土資料館の展示と回答した人が 13 人 (30.2%) となっています。市が発信した情報が多いことがわかった。

歴史文化は、その内容を知ることによって価値や魅力を発見し、より深く知りたいと感じる人が多いと思う。今後の情報発信に役立てていきたい。

問 8 文化財を保存し継承していくために、あなたが協力できそうなことや考えられそうなことを教えてください。

**祭りや行事、清掃活動、講座、イベント等への参加が多かった。**

「地域の祭りや伝統行事への参加」と回答した人が 20 人 (46.5%)、「文化財を守

る活動（清掃など）への参加」と回答した人が 19 人（44.2%）、「文化財に関する講座やイベントなどへの参加」と回答した人が 18 人（41.9%）で何らかの形で協力したことがわかった。

文化財は、主に所有者と行政で守ることが多い状況だが、「文化財」は地域の宝であることから、市民もともに守っていくという意識を持つことで郷土を愛する気持ちにもつながると考えるため、市民を巻き込みながら保存、継承していく取り組みが必要と考える。

問9 市民が文化財について理解し、保存・活用して未来に継承していくために、富士宮市でどのような課題があると思いますか。

理解に関しては、知る機会がないこと、保存・活用に関しては、費用や担い手の確保が課題。

文化財について理解いただくためには、まずは知ることが必要。これに関連した回答では「歴史文化について知る機会がない」と回答した人は 21 人（48.8%）、「歴史文化について知る手段や場所がない」と回答とした人は 13 人（30.2%）、「歴史文化について、詳しく学ぶ仕組みがない」と回答した人が 12 人（27.9%）。まずは、知る機会が必要であることがわかった。また、保存活用については、費用の面や担い手の問題のほか、まずは、関心がないという回答が多くあった。

問10 問9の課題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。

気軽に参加でき、興味を持ってもらえるような事業を行うことと多角的な取り組みが必要。

回答の中で、「興味・関心」という言葉がキーワードであると感じた。多くの方が興味関心を持っていないため、興味を持てる方法として、気軽に参加できるイベントや、参加しながら学べる、遊びながら学べる機会を企画し様々な方法で情報発信することが必要。

また、小中学校の授業や行事の中で実施する意見が多くあったが、子どもが学んだ内容は親に伝わっておらず、学校で学んだ後は、文化財に関して知る機会がないとの意見があり、中学校卒業後や大人が学ぶ機会の創出が必要。

また、保存には費用がかかるため、観光資源としての活用アイデアやその他の分野も縦断的に多角的に活用する意見があったが、これはまさに、策定に取り組んでいる「文化財保存活用地域計画」の考え方でもあるので、今回いただいた意見を参考に計画の内容を検討していきたい。